

發 刊 の 辞

當教室では故小川琢治中村新太郎兩教授の發案により廣く地學同好の士を糾めて地球學團を興し雜誌『地球』を刊行した。同誌は大正13年1月から昭和12年6月に至る迄卷を重ねること27に及び地學の進歩と其の普及に貢獻するところ尠くなかつたのである。然るに斯學の進歩發展は自ら獨自の研究發表機關誌の必要を感じ昭和17年『學術報告』の誌名で専ら當教室を主体とする地學研究者の研究業績を發表し廣く同學の士に領つたのであるが終戦後の事態はこれも亦休刊の已むなきに至つたのである。然るに祖國の再建には産業の復興が第一であり産業の復興には特に地下資源の開発が不可欠の必要條件であることが痛感せられ従つて地學の重要性が叫ばれるようになったことは喜びに堪へないのである。茲に於て我が教室では地學研究者、地學教育に携はれる斯學の徒並びに業界に關係せられる諸氏の要望に應へるため特に地學の普及と其の應用方面を重視して『地學』を發刊することゝなつた。然るに經濟的の事情のため前途に幾多の苦難も予想せられるのであるが幸に續者諸氏の應援を得て所期の目的のために發展することを望んで已まないものである。願くば讀者諸氏の御投稿と御叱聲を賜はらんことを。

京都大學理學部地質學鑛物學教室